様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：18001
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010～2011 年度
課題番号：22730482

研究課題名（和文）

住民参加の促進に向けたコミュニティ価値の構造と影響力の検討

研究課題名（英文）

Psychological research of community value toward promotion of public participation

研究代表者
加藤　潤三（KATO　JUNZO）
琉球大学・法文学部・准教授
研究者番号：30388649

研究成果の概要（和文）：

本研究では、「住民が地域コミュニティに対して求めるニーズであり、地域での実際的な生活において重視する地域の諸要素」を『コミュニティ価値』と定義し、現在の地域コミュニティにおいて住民が持っているコミュニティ価値にはどのようなものがあり、どのような構造になっているのかについて検討を行うことを主目的とする（研究 1)。またさらに、コミュニティ価値を量的に測定できるよう尺度化し、地域住民のコミュニティに対する態度や住民参加に及ぼす影響についても検討を行う（研究 2）。

以上の目的を検証するために、2010 年度に研究 1 を、2011 年度に研究 2 を実施した。まず研究 1 では、地域特性の異なる 3 地域において質問紙調査を実施し、最終的に 689 名（有効回収率 46.7%）から回答が得られた。コミュニティ価値を「あなたが現在、地域の生活で重視していることは何ですか？（自由記述）」という質問項目で尋ねたところ、1507 の有効コメントが得られた。これらのコメントを KJ 法によって分析した結果、54 の小グループと、それらをまとめた 16 の大グループに分類された。主な大グループとして、「交通」、「自然」、「教育・子育て」、「人間関係」、「商業施設・買物」などが挙げられた。この結果より、住民が地域コミュニティにおいて重視するコミュニティ価値は、単一的ではなく、多面的であることが示された。また大グループの関係性より、コミュニティ価値には大きく分けて、①「合理性・利便性―情緒性・社会文化性」次元と、②「豊かさの向上－持続可能性」の次元があることが示された。

次に研究 2 では、日本全国を対象とした Web 調査を実施し、651 名より回答が得られた。研究 1 で得られた大グループに対し、回答者は重視する程度に応じて得点を配分するよう求められた（100 点を配分）。配分された得点をもとにクラスター分析を行ったところ、住民のコミュニティ価値は、「利便性」・「コミュニティ問題」・「情緒性」・「セーフティネット」・「居住性」の 5 クラスターに分類された。各クラスターと住民のコミュニティに対する態度・住民参加との関連を検討した結果、特に「利便性」と「情緒性」で関連が認められた。ただし両者では関連の方向性が異なっており、「利便性」はコミュニティに対する態度や住民参加と負の相関、「情緒性」では正の相関であった。つまり、コミュニティにおいて住民が利便性を追求するほど、コミュニティに対する態度や関わりが低下するのに対し、情緒性が増すほどコミュニティに対する態度や関わりが増すのである。

研究成果の概要（英文）：

In this study, “community value” was defined as ‘elements of the local community that residents need for and emphasize in their practical daily life’ and the main purpose of this study was to find out what kinds of community value residents have in the current community and to investigate the structure

of community value (research 1). And this study also aimed to develop a scale for evaluating the community value among residents and to investigate these value's effects on resident's attitude and their participation to their community (research 2).

We conducted research 1 in 2010 and research 2 in 2011 to examine these purposes. In research 1, we conducted questionnaire survey in three areas with different characteristics and response rate among the areas was 46.9 % (689 respondents). We obtained 1507 effective comments were obtained from the residents who were asked to describe their community value with open-ended question ('what is a serious consideration for you in your community life?'). As a result of analyzing these comments with KJ method, these were classified into 16 main categories and 54 sub categories. For example, we had community value such as 'Traffic', ''Nature', 'Education and Childcare', 'Human relation' and 'Commercial facility and Shopping' from main categories. The result showed that community values that residents emphasized on their community were not single-sided but many-sided. And according to relation of main categories, it revealed two dimensions in community values : 'Rational/Economical-Emotional/Sociocultural' and 'Enrichment-Sustainability'.

In research 2, we conducted Web survey for people throughout Japan and 651 respondents answered. Unlike research 1, they were asked to distribute 100 points depending on the degree how much they emphasizes on in their community. As a result of cluster analysis based on the points residents distributed, it revealed that the community values were classified into 5 clusters: 'Convenience', 'Regional Problems', 'Emotionality', 'Safety Net', and 'Habitability'. And the result of investigating each cluster's effects on resident's attitude and their participation to their community showed 'Convenience' and 'Emotionality' were correlated to them. However, the direction of the correlation was different. 'Convenience' was negatively correlated with them, on the other hand 'Emotionality' was positively correlated with them. That was the findings suggested that the resident's tendency to emphasize on convenience showed negative attitude and a decline of participation to their community, while the tendency to emphasize on emotionality showed positive attitude and a promotion of participation to their community.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
年度			
総　計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・社会心理学
キーワード：　コミュニティ価値・住民参加・地域住民

１．研究開始当初の背景

我々人間にとって、コミュニティは社会生活の重要な基盤である。しかし日常的な生活空間としてのコミュニティである「地域社会」に目を向けた場合、そこには福祉や医療、教育、さらには犯罪や環境など、数多くの問題が山積している。これら地域社会における多様な問題を解決していくためには、これまでの行政を主体としたトップダウン的なガバメントではなく、地域社会内におけるシステム間の相互連携に基づくガバナンスを地域社会に構築していくことが必要である。特にガバナンスの成立においては、地域住民が主体となって、ボトムアップ的にコミュニティの問題に関与していくことが重要であり、そのための具体的な方略として住民参加が必要不可欠である。

この住民参加を促進させるためには、住民のコミュニティ・アイデンティティ（野波・加藤,2009）やコミュニティ感覚（McMillan & Chavis,1986）、コミュニティ意識（石盛,2004）を高めることが重要であることが明らかにされている。ただしこれらの先行研究では、各概念（要因）と住民参加との関連性や因果関係は検討されているものの、そもそもなぜ住民がコミュニティ・アイデンティティやコミュニティ意識を抱くようになったのか、その先行要因までは明らかにされていない。そのため、いかにこれらコミュニティ･アイデンティティなどの各要因が住民参加の促進に有用であったとしても、これらの要因を高めるための具体的なアプローチが不明のため、実践面に課題が残ってしまう。

また、各要因に共通するタームである「コミュニティ」についても、近年の IT 化や交通機関の発達に伴い、コミュニティそのもののあり方や人々のコミュニティの認識の仕方が変容しているという指摘もある。従来のコミュニティは、居住地としての地域性と、そこに居住する住民の共同体感情を軸として構築されていた（地理的コミュニティ）のに対し、現在では、人々が自らの価値や関心、目標の共有に基づいて自己選択的に関係性を構成する機能的コミュニティへとその重要性がシフトチェンジしている。

ただし、いかに人々が機能的コミュニティを重視していても、地域社会における様々な問題が、地域という地理的制約を受けた地理的コミュニティで発生する限り、そこに居住する住民はその被害の影響を避けることはできず、またその解決のためには住民自らが関与していかなければならない。しかし現実的には、人々のコミュニティの志向性が機能的コミュニティへと変容していることが示すように、住民の地理的コミュニティとしての地域社会に対する意識は希薄化しており、また住民の地域社会に対するニーズや価値付けも多様化していっていると考えられる。

２．研究の目的

このような多様なニーズを持った人々が、地域コミュニティの住民として定着するためには、個々の住民が地域コミュニティに対して求めるニーズを、いかにその地域コミュニティが充足できるかが重要である。そこで本研究は、「住民が地域コミュニティに対して求めるニーズであり、地域での実際的な生活において重視する地域の諸要素」を『コミュニティ価値』と定義し、現在の地域コミュニティにおいて住民が持っているコミュニティ価値にはどのようなものがあり、またどのような構造となっているのかについて検討を行うことを目的とする（【研究 1】）。

なお、例えば、自らのコミュニティ価値を充足してくれるような地域コミュニティに対し、住民は高いコミュニティ・アイデンティティを感じたり、より地域コミュニティを良くしていくために積極的に住民参加を行うといったことも考えられる。そこで本研究は、コミュニティ価値を量的に測定できるよう尺度化し、コミュニティ価値のどの要因が地域住民のコミュニティに対する態度や住民参加に影響を及ぼすのかについて検討を行う（【研究 2】）。

３．研究の方法

【研究 1】

・研究方法

郵送法による質問紙調査（2011 年 1 月実施）

・調査対象地域

地域特性の異なる 3 地域を調査対象地域として選出した。地域特性の基準として、①人口、②移動性（転出入などの社会動態）、③産業構造（主に第 1 次産業の割合（全国平均 4.8%））を設定し、それぞれの基準から、集落（都市部－村落部）に分類した。都市的特性を持つ地域として大阪府吹田市を選出した。ついで村落的特性を持つ地域として沖縄県中城村を選出した。3 地域目として、都市的特性を持つ新興住宅地域と村落的特性を持つ旧村地域が併存している京都府京田辺市を選出した。

・調査対象者

吹田市・京田辺市・中城村とも、投票区（中

城村は行政区）の人口比に応じた層別 2 段階無作為抽出法によって、20～70 歳までの有権者を 500 名ずつ抽出した（総数 1500 名）。

【研究 2】

・研究方法

Web 調査（㈱クロス・マーケティングに委託）（2011 年 12 月実施）

・調査対象者

日本全国を 11 ブロック（①北海道・②東北・③北関東・④南関東・⑤北陸・⑥中部・⑦近畿・⑧中国・⑨四国・⑩九州・⑪沖縄）に分け、総人口に応じて、各ブロックの調査対象者数を決めた。最終的に得られたデータ数 651 名を調査対象者とした。

4．研究成果

【研究 1】

調査の有効回答数は 689 名（有効回収率 46.7%）であった。

コミュニティ価値を「あなたが現在、地域の生活で重視していることは何ですか。」という質問項目で尋ねたところ、1507 の有効コメントが得られた。得られたコメントに対して KJ 法（川喜田,1967）を行った。その結果、54 の小グループとそれらをまとめた 16 の大グループに分類された。大グループのカテゴリー名と度数は以下の表 1 の通りである。

表1.コミュニティ価値のカテゴリー

大グループ	度数
交通	283 (18.8%)
商業施設・買物	160 (10.6%)
文化的生活	9（0.6%）
公的施設・サービス	40（2.7%）
宅地環境	39（2.6%）
物価	4 (0.3%)
利便性	16（1.1%）
自然と利便性のバランス	7（0.5%）
人間関係	171（11.3%）
伝統	32 (2.1%)
自然	230（15.3%)
景観	16 (1.1%)
安全	87（5.8%）
医療・保健	37（2.5%）
教育・子育て	180（11.9%）
地域の発展	52（3.5%）
地域問題の解決	60（4.0%）
なし	84（5.6%）
計	1507件 (100.0%)

度数の多い順で見ていくと、「交通」、「自然」、「教育・子育て」、「人間関係」、「商業施設・買物」までが度数 10%を超えており、これらはコミュニティにおいて、広く受け入れられ、重視されているコミュニティ価値であると考えられる。以降、「安全」（5.8%）、「なし」(5.6%)、「地域問題の解決」(4.0%)、「地域の発展」（3.5%）と続いた。これら一連の結果から、住民が地域コミュニティにおいて重視するコミュニティ価値は、単一的ではなく、多面的であると言えよう。

また、各グループの位置関係を示した A 型図解が図 1 である。この A 型図解より、コミュニティ価値には大きく分けて、①「合理性・利便性―情緒性・社会文化性」次元と、②「豊かさの向上（エンリッチ）－持続可能性（サステーナブル）」の次元があると考えられる。

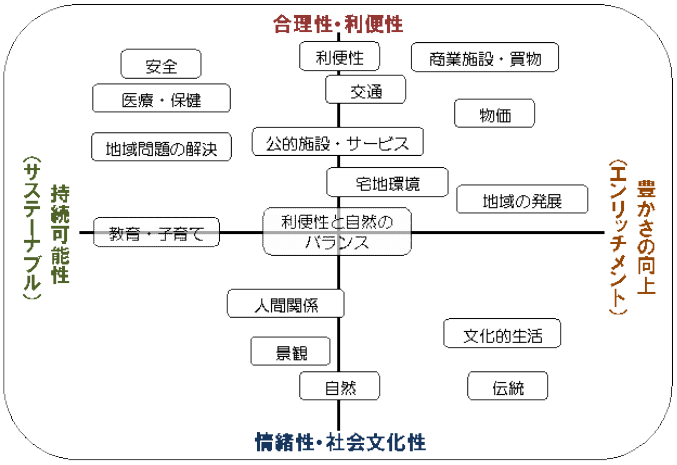

図 1.コミュニティ価値の A 型図解

【研究 2】

研究 1 で得られた大グループをもとに、『コミュニティ価値尺度』を作成した。得点の付け方は、項目間で重視する程度を相対的に比較できるよう、得点を配分する（合計 100 点満点）形式で行った。

表2. コミュニティ価値の重視度

項目	重視する得点	順位
1) 交通	16.6 （15.0）	1
2) 商業施設・買物	12.9 （10.2）	2
3) 文化的な生活	5.2 （5.6）	10
4) 公的な施設やサービス	5.5 （4.9）	9
5) 物価	6.9 （8.1）	6
6) 住宅環境	9.0 （9.4）	3
7) 人間関係	5.6 （8.0）	8
8) 伝統	2.9 （4.7）	13
9) 自然	6.6 （7.5）	7
10) 景観	4.3 （6.0）	11
11) 安全	8.4 （9.0）	4
12) 医療・保健	7.0 （6.9）	5
13) 教育・子育て	3.9 （5.7）	12
14) 地域の発展	2.5 （4.1）	14
15) 地域問題の解決	2.4 （4.6）	15
16) その他）	0.2 （2.4）	16

分析の結果、回答者が最も重視していたコミュニティ価値は「交通」であり、次いで「商業施設・買物」であった。以下、5 点以上のものを列挙すると、「住宅環境」、「安全」、「医療・保健」、「物価」、「自然」、「人間関係」、「公的な施設やサービス」、「文化的な生活」となった（表 2）。

次に、コミュニティ価値 15 項目の構造を検討するためにクラスター分析（平方ユークリッド距離・Ward 法）を行った。その結果、5 つのクラスターが抽出された。

・クラスター1：『利便性』（構成要素「交通」、「商業施設・買物」）、
・クラスター2：『コミュニティ問題』（「地域の発展」、「地域問題の解決」、「教育・子育て」）
・クラスター3：『情緒性』（「伝統」、「景観」、「人間関係」）
・クラスター4：『セーフティネット』（「安全」、「医療・保健」）
・クラスター5：『居住性』（「文化的な生活」、「公的な施設・サービス」、「住宅環境」、「自然」、「物価」）

コミュニティ価値の各クラスターと、住民参加およびコミュニティに対する態度との関連を検討するために相関分析を行った（表 3）。分析の結果、コミュニティ価値の『利便性』は住民参加や多くのコミュニティに対する態度（例えばコミュニティ・アイデンティティや自己決定、住民の関係性評価など）と負の相関が得られた。つまり、地域住民がコミュニティの利便性を重視するほど、住民参加を行わず、コミュニティに対する態度も低くなるのである。

一方、コミュニティ問題や情緒性、セーフティネットは、住民参加やコミュニティに対する態度の各因子と正の相関が認められた。地域コミュニティにおける問題や安全面に関心を持つほど、また地域の伝統や人間関係を重視するほど、地域コミュニティに対する肯定的な態度を形成し、住民参加を促進させるのである。

なお居住性に関しては、いずれとも相関が認められなかった。

表3.コミュニティ価値と住民参加・コミュニティに対する態度との関連

	コミュニティ ID	自己決定	住民の関係性	住民参加数
利便性	-.15***	-.20***	-.20***	-.20***
コミュニティ問題	.18***	.20***	.10*	.14***
情緒性	.17***	.14***	.17***	.16***
セーフティネット	.08	.15***	.06	.11**
居住性	-.03	-.07	.02	.02

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 4 件）

1. 加藤潤三　2011 年 9 月 19 日　コミュニティ価値の地域間比較, 日本社会心理学会第 52 回大会発表論文集（於名古屋大学）, 416.
2. Kato J. 2011/July/5 Psychological research on community value among resident. The12th European Congress of Psychology (Istanbul), 79.
3. 加藤潤三・石盛真徳・岡本卓也　2011 年 3 月 20 日　沖縄における住民のコミュニティ価値の構造とその関連要因の検討, 沖縄心理学研究（於琉球大学）, 34, 2-3.
4. 加藤潤三・野波寛・中谷内一也　2010 年 9 月 18 日　沖縄におけるコミュニティ価値の検討, 日本社会心理学会第 51 回大会発表論文集（於広島大学）, 754-755.

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕
研究報告書：加藤潤三　2012　『住民参加の促進に向けたコミュニティ価値の構造と影響力の検討』

６．研究組織
(1)研究代表者
氏名：加藤　潤三（KATO　JUNZO）
琉球大学・法文学部・准教授
研究者番号：30388649